

平成16年度 (H16.10.1 ~ H17.9.30) 年会費納入者一覽 (H16.10.1 ~ H17.9.30 現在まで)

32回 (1名) 曾我英彦	浅田稔	池田成義	長谷川秀三	嶺國和	丸山一敏	佐藤孝靖	大滝均	森田満	85回 (14名)
36回 (2名) 齋藤茂美 栗山甚之助	阿部穆 齋藤泰五郎 坂井保也	奥村陽彦 片桐欣哉 齋藤茂 大門啓治 永井克孝 榑崎義夫 路谷秀雄 福田満 細貝実 堀内俊夫 赤堀和郎 板井慎平 昔川敦 宗村泰四郎 村山保 毛利剛 望月和明 本永祐嗣 山崎克己 山谷皓榮	早武正博 廣瀬欽次郎 藤本剛 松尾克己 丸山敏祝 三國泰彦 宮田庄之助 矢川和章 山崎良一 山本淳夫 61回 (48名) 赤堀和郎 朝日朗 浅見昭夫 安宅久憲 阿部重生 阿部重生 阿部重生 望月和明 本永祐嗣 山崎克己 山谷皓榮 59回 (38名) 金子章 川崎榮一 木村政雄 草間光俊 久須美博 熊谷隆幸 小池弘 小嶋哲夫 小林孝司 小林元雄 齊藤伸昭 佐藤敏夫 杉山由一 栗林貞一 栗林洋 小池和男 河野誠 小城一廣 佐々木康裕	山崎敬介 山本真弓 吉田行 渡辺千里 63回 (15名) 浅野康一 五十嵐信一郎 五十嵐房子 石渡利男 石渡利夫 會正之 金川博 兒玉賢司 小倉至 中村道衛 馬場政説 彦坂道彦 村山弘義 山田忠一 山田益也 64回 (47名) 青野啓 阿部欣司 植村朝音 江部陽一 遠藤治一 大石正晃 大倉孝男 太田健治 柄沢茂 川井文夫 川口徹 川崎明 木山清 桑野光雄 青木幸彦 坂井俊一 坂井敬 坂本昌弘 佐藤章 椎名睦郎 嶋岡洵 清水裕子 清水良男 須田嶺治 高橋洋 高橋正幸 田才邦彦 田辺元彦 田伏正樹 田巻亮 若佐剛 津野慶浩 中川透 中島仁 中山徳彦 西野貢司 庭山暢彦 波田良治 早川周作 藤沢靖郎 星満 堀健次 榑崎晴夫 三國六朗 山根伸之 吉川要輔 吉田豊祐 65回 (21名) 阿部正男 安藤宜清 飯村厚 五十嵐徹 池野浩 枝松昇 小沢征夫 川合英次 河路明夫 久保田泰雄 小林亘 渋谷皓 鈴木衛士 半澤貢 本間忠彦	七里紀善 清水一男 高木敏之 高杉昭二 高柳洋夫 樋口正臣 村上則彦 内田定寛 川上肇 川原英夫 菊池重治郎 木下功 合田春美 佐藤勲 佐藤智雄 塩谷芳彦 田中澄夫 中野武管 二宮靖彦 丹羽真彦 野水宏樹 林武郎 半澤弥栄子 三井昌子 村上紀光 室山紀子 吉田六左エ門 67回 (18名) 一柳肇 大高道夫 大野隆治 片桐靖忠 片山忠一 川崎昌彦 齊藤久美子 佐々木邦夫 野野誠 高橋三郎 高橋信夫 寺井宏 西章 前田康久 皆川学 三村裕二 山田十市 山田高男 吉田一三 68回 (33名) 安達賢司 安達雅巳 阿部美和子 伊佐早幸男 江上雅子 村上康一 上村嶺子 川崎肇 草野佐 小林勲 小日向信光 近藤和久 近藤真雄 齋藤健弥 重野康人 鈴木裕徳 滝沢猛 竹石肇 田辺紀子 寺尾正大 長沼誠二 中村秀子 浜田庄司 藤田伸二 増子藤男 松原伸子 森恭也 吉岡利昭 若井吾吾 渡邊公夫 渡辺千鶴 渡辺泰彦 渡部治子 69回 (14名) 青木利祐 阿部好明 岩尾信宏 小黒明弘	七里紀善 清水一男 高木敏之 高杉昭二 高柳洋夫 樋口正臣 村上則彦 内田定寛 川上肇 川原英夫 菊池重治郎 木下功 合田春美 佐藤勲 佐藤智雄 塩谷芳彦 田中澄夫 中野武管 二宮靖彦 丹羽真彦 野水宏樹 林武郎 半澤弥栄子 三井昌子 村上紀光 室山紀子 吉田六左エ門 67回 (18名) 一柳肇 大高道夫 大野隆治 片桐靖忠 片山忠一 川崎昌彦 齊藤久美子 佐々木邦夫 野野誠 高橋三郎 高橋信夫 寺井宏 西章 前田康久 皆川学 三村裕二 山田十市 山田高男 吉田一三 68回 (33名) 安達賢司 安達雅巳 阿部美和子 伊佐早幸男 江上雅子 村上康一 上村嶺子 川崎肇 草野佐 小林勲 小日向信光 近藤和久 近藤真雄 齋藤健弥 重野康人 鈴木裕徳 滝沢猛 竹石肇 田辺紀子 寺尾正大 長沼誠二 中村秀子 浜田庄司 藤田伸二 増子藤男 松原伸子 森恭也 吉岡利昭 若井吾吾 渡邊公夫 渡辺千鶴 渡辺泰彦 渡部治子 69回 (14名) 青木利祐 阿部好明 岩尾信宏 小黒明弘	大滝均 大橋秀隆 小水忠介 精谷好邦 加門文隆 黒井健 黒木幹雄 笹川雅之 佐藤浩 高橋保 高橋信郎 竹之内明 土屋彰義 西田百合子 波多腰明 渡部終五 75回 (38名) 有蘭順子 五十嵐孝 石塚文雄 伊藤公 植村山規夫 枝並一夫 大塚恵子 大野敏雄 岡田政文 小畑修二 笠井忠 川上滋 北村順作 木戸守 小泉慈行 小島孝雄 後藤輝雄 齋藤章二 齊藤隆夫 鈴木正夫 大場菊代 柄沢卓 小坂塚豊 小林昭衛 小林碧 齋藤誠 佐藤禮子 高橋直樹 中村英一 福井明子 松田裕子 森田琢夫 72回 (15名) 宮城一 八木健 山崎信行 小川省三 金巻裕史 神林賢治 黒木トシ子 齋藤俊正 高橋忠 高橋裕介 高橋圭一 富田由李 古山恒夫 細谷長貞 松永安五 73回 (9名) 阿部裕 飯村修 石川等 田辺研吉 田巻裕 中野治 南英雄 山田美成 両川弘道 74回 (26名) 藍沢幹人 池一 石井拓男 石山范 和泉潤 岩城修平 上田久則 江口則男 大石憲一	湯本雅恵 渡辺拓 渡辺雅夫 77回 (9名) 片山等 神戸裕 北村一雄 佐藤茂 杉崎真実子 田原隆夫 山田民夫 78回 (12名) 太田秀樹 小野真知子 川村和共 齋藤車之丞 志藤洋子 篠田敏朗 土田文夫 肥田博子 松田元男 向井美夜子 村田光男 吉澤哲彦 79回 (6名) 小田章治 河正子 西口幸男 野村正史 星名健二 丸山直昌 80回 (7名) 佐田和彦 長正子 小野秀子 野上正敏 齋藤宏史 滝沢正規 内山博樹 81回 (10名) 荒川洋 江口稔一 尾山尚 齋藤俊至 笹川典男 後藤浩秋 白井秀樹 中西山里 横山俊二 鵜沼博 82回 (11名) 押野嘉雄 金子裕一 清田甚 日下部朋子 小亦斉 齋藤滋 中林昭裕 西山浩子 星野憲昭 宮村伸一 吉田実 83回 (9名) 浅岡芳朗 遠藤光郎 佐野栄二 杉本信昭 鈴木時男 高橋毅 高山佳郎 増子藤男 横山修 84回 (10名) 伊藤紹 大塚あゆみ 木村文郎 島津孝 田中昌夫 野口和子 野口俊介 星野郁夫 星野彰英 正木清貴 丸山祐一郎	雨木若慶 荒井裕子 今井豊重 久保田浩一 小林彰義 笹川康雄 笹川康雄 佐藤康 塩田拓哉 杉林亨 早福博史 田中研一 森坂和生 登坂輔 山田尚美 86回 (5名) 齋藤健 田中利直 広田淳子 宮藤重三郎 吉井正行 清水忠明 田口操 田中隆 南正人 渡辺政城 88回 (4名) 今井信一郎 長谷川隆 山崎哲也 山科満 89回 (2名) 岩野高子 倉田裕一 90回 (9名) 雨夜喜美子 歌代真人 勝田達志 木村和人 齋藤結花 高橋美和 田辺文 坪井俊樹 横井義彦 91回 (1名) 真保恵美子 95回 (1名) 橋田篤英 101回 (1名) 今井慶貴 102回 (1名) 池田哲郎 103回 (1名) 松原有里枝 105回 (4名) 河原健一 田中健太 一柳倉信 柳通こずえ 106回 (1名) 野本裕史 107回 (2名) 五十嵐悠介 小橋川嘉樹 109回 (1名) 中俣徹 110回 (1名) 山本純 111回 (4名) 坂内友美 種田純郎 中俣美奈 羽田野毅 112回 (4名) 安藤達 大塚あゆみ 木村文郎 吉田丈夫 113回 (4名) 大村亮祐 岡嘉紀 小川卓人 西悠香 以上799名

第38号
 発行日：平成17年10月20日
 発行所：
 東京青山同窓会事務局
 〒107-0062
 港区南青山3-18-4-304
 (有)ジェイ・クラブ内
 TEL. 03-3423-3591
 発行者 池 一

東京会報

東京青山同窓会

-東京青山同窓会年間維持費-
 1口 / 1,000円 2口以上(年間)
 会計幹事:佐藤 茂 (77回)
 振込先:
 みずほ信託銀行 本店
 普 4782496 東京青山同窓会
 郵便振込口座 00150-9-4074

平成17年度 新人歓迎会・講演会 報告

平成17年6月17日(金) 於：東京全日空ホテル 池 一 (74回)

40数名の迫力に圧倒される

今年4月に勇躍首都圏へ乗り込んできた新人を迎えて、6月17日、東京全日空ホテルにて、2005年度の東京青山同窓会新人歓迎会・講演会が開かれた。新人は近年にない40余名という大デレゲーション、青山同窓会からは、長谷川義明会長、校内幹事の玉木正巳先生、旧3年担任の渡邊治夫、北岸信治先生がお見えになり、OB・OGも80余名の参加で、大いに盛り上がった。

第1部では、107回学年幹事の小橋川嘉樹くんの司会のもと、栗林貞一東京青山同窓会会長、長谷川会長のご挨拶などのうち、67回卒の松井啓(まつい あきら)氏にご講演いただいた。松井氏は、一橋大学法学部卒業後、外務省に入省、ソ連、フィリピン、ユーゴスラヴィア大使館勤務を経

て、イタリア・インド大使館公使、カザフスタン・ブルガリア・ナイジェリア特命全権大使を歴任された。04年11月に退官、今年、杏林大学総合政策学部に客員教授として迎えられている。講演のテーマは「国際社会と日本」。ご自身の東欧・ロシアでの大使館勤務の経験や、拡大するEUのねらいなどを、シュペンゲラーの『西欧の没落』からの引用を交えて語られ、最後に、新人へのメッセージとして次の3点を強調された。

(1) 強靱な肉体と精神を創ろう。若い頃にどれだけ鍛えたかが人生を左右する。(2) 常に向上心、好奇心をもち、創意工夫を欠かさない。(3) もっと日本のことを知り、日本を考えよう。

そして、「日本人は国際社会で3Sジャパニーズと言われる。笑ってごまかす(スマイ

ル)、発言しない(サイレンス)、会議などで眠っている(スリーピング)ということである。グローバル化の時代に、若い人は、自分の主張をどうやって理解してもらえるかという能力を磨くことが肝要である」と締めくくられた。

その後新人紹介に移り、107回学年幹事の五十嵐悠介くんが新人の名前を呼び上げる。さすがに40数人ともなると迫力がある。力強い返答が相次ぎ、新人代表の網干千春さんから返礼の挨拶があった。

つづいて、105回学年幹事柳通こずえさんの司会により、斎藤伸雄東京青山同窓会名誉会長(44回)の乾杯の発声で、第2部の懇親会が始まった。あちこちのテーブルで、年代を超えた語らいがみられ、ついに20分も時間延長。2次会の時間を気にしながら校歌・応援歌合唱と進んだ。新人の大半が参加した『日本海庄や』赤坂店での2次会は、予定参加者をはるかにオーバーして、2部屋に分かれざるをえないほど。後日談であるが、新人も旧人との「飲み会」を楽しみ、参加できなかった友達にまた行こうと誘ったとのこと。以後、この楽しい集まりに、多数のOB・OG諸氏がお出かけ下さるようお誘いしたい。



会長挨拶

栗林貞一 (59回)

一期一会



東京青山同窓会の皆さん今日は。相変わらず元気でご活躍のことと思います。月日のたつのは早いもので、暑い夏が過

ぎれば、もう総会のシーズンです。今年は11月22日(火)です。大勢で集まって楽しく語り合しましょう。

よく「一期一会(いちごいちえ)」という言葉を使います。これは茶道から出たもののようです。利休の弟子「宗二」の「山上宗二記」に「常の茶の湯なりとも一期(一生の意)に一度の会のやうに主客とも誠意を尽くせ」とあるそうです。また、あの井伊直弼もその著「茶湯一会集」においてこの言葉を強調し、「茶湯の交會は一期一会といひて、たとへば、幾度同じ主客交會するとも、今日の会に再びかへらざることを思へば、実に我一生一度の會也」と述べています。つまり今日の一日は二度とないことを肝に銘じ、今日の茶會は生涯にただ一回限りのものと心得て、主客ともに誠心誠意行うべきもので

あるというのです。これは我々の一生やその生活のいろいろな場面であってはまることですが、同窓会の集まりにもいえることだと思います。

その同窓会ですが、各回の皆さんの出席状況にバラツキが大きく、同窓会本来の趣旨からいって大変残念な状況です。以前からこのことについては再々申し上げ、呼びかけているのですが、現在とても十分というわけにはまいりません。同窓会の皆さんが「一期一会」の気持ちで出席していただければ、同窓会の意義は一層大きなものとなると思います。

それぞれ同期の友人などを中心に誘い合わせて、11月22日の総会にお出かけいただき、楽しい一夕を過ごすこととしたいものです。

東京青山61期会総会の天敵はジューン・ブライド

幹事・記

61期にちなんで、6月第一土曜日開催が東京青山61期会の年一回の総会だ。

が、6月と言えばジューン・ブライドの月。ホテルなどは婚礼、披露宴のかき入れ時。ましてや週末は、「2・3年前から予約で埋まっております。6月以外ならなんとかなりますが」と一蹴される。

会場探しに窮しているところへ、灯台もと暗し、身近に穴場があった。

61期のプライベートな会合によく利用する中華料理店・南国酒家があり、その本店が、原宿駅前で盛業中、しかも収容百人もOKという、願ったり、叶ったりのロケーション。

表参道に面し、ブランド・ショップ、竹下通り、キャット・ストリート。

参加者の殆どが寄り道して、原宿の変わりようにサプライズ。

新潟からは大橋禎助先生、須貝伸三、

高橋昭一、江口良助、斉藤義明、長谷川義明、伊藤英子、小杉秀一。北海道から藤田宏が初参加。

いつも秋田から参加する長沼雄峰は欠席の名代として、名酒・高清水の差し入れ。

徳田晋也の司会で、物故者への黙祷、長谷川耕一実行委員長の乾杯の音頭。

テーブルには新潟勢持参の越乃寒梅。老酒、ビールが供され、鮮、濃、淡、爽、深の広東料理の幻味が続く。

50余年の時空を埋めた2時間半。

締めは江口良助のリードで応援歌、校歌の斉唱。

二次会は大橋先生の宿泊先・キャピトル東急ホテルの李白バー。

先生の教職以前のサラリーマン生活の秘話も聞けて、散会が惜しまれるくらいだった。

来年はD組の担当。6月第一土曜日に拘っていると、「6月の花嫁」という天敵が立ちほだかり、会場難は必至。ご安心。



'06年の同期会幹事クラスD組。バックの表題は浅見昭夫人の揮毫

88期同期会開催される

小竹 聡 (88回)

7月16日土曜日、第88回卒業生の同期会が新潟シルバーホテルで開催されました。当日は、116名の参加があり、高校卒業後25年振りの再会に、夜遅くまで、懇親の輪が広がりました。会は、谷口聡君の司会の下、今回の企画の発案者である渋谷聡君の開会の挨拶の後、東京在住者として私の乾杯の音頭が続き、池田浩君のリー

ドする「丈夫」で中締め、引き続き、同じ場所で2次会へと突入、その後は、各自、夜の古町に繰り出した模様です。

なお、同期会に先だって、母校で教鞭を執っている渡辺治夫君の案内の下、高校見学会も行われ、高校時代を懐かしく思い出す機会を持ちました。現在、3名の同期生が母校の教員となっているとのこと。

今回の同期会は、元々、新潟同窓会副幹事長として活躍している渋谷聡君の発

案の下、各クラスから選出されたクラス幹事からなる運営委員会が結成され、周到な準備を重ねた上で開催に至ったものです。ホームページが開設され、当日のスケジュールや連絡不明者の氏名が掲載された他、出席予定者の氏名が毎日、更新されたことは、今回の同期会の成功に、大いに寄与したように思われます。幹事の皆さんの御尽力に心から感謝するとともに、次回の同期会の開催を早くも心待ちにするものです。

64回東京同期会 今年も盛大に開催

(2005.5.16) 東京同期会事務局 川崎 明・坂井 敬

今年も去る5月16日(月)新宿の東京厚生年金会館で開催しました。過去2年(2回)と場所・会費・曜日を変えて開催しましたが出席者51名(男性48名、女性3名)と目標にしていた50名台を越えこの3年間の最大

数となり賑やかで楽しい同期会となりました。

今年は同期会初めての方や久しぶりに出席の方が多く例年にない懐かしさの漂う会でしたが反面現役の医師や教師の方等昨年



までの(土)開催ならば出席できたと思われる方も見られ、改めて我が同期会メンバーでいまなお社会貢献されている方々の多さを痛感した次第です。

卒業347名中既に50名(14%)の方が鬼籍に入られました。「お互い元気な間に毎年会おうじゃないか」と毎年続けて来ている同期会ですが、早いもので来年は卒業後半世紀50周年を迎えます。

この記念すべき50周年は新潟で合同全国総会を開催することになりました。新潟同期会が中心となり私たち東京同期会も全面協力し生涯の思い出に残る同期会にしたいと張り切っております。同期会皆様のご協力を心からお願い申し

予告

青山第64期卒業50周年記念総会

平成18年6月3日(土)

新潟市 日航ホテル

第83期(昭和50年卒業)

30周年同期会の報告

第83期代表幹事:吉水敦

平成17年8月12日(金)に第83期青山同窓会30周年同期会を開催しました。

同期会に先立って16時より新校舎見学会・16時30分から18時まで新校舎の視聴覚教室で記念講演会を催しました。講演に先立ち前PTA会長であった丸田拓雄君より新潟高等学校の現状報告があり、今の学生さんはとても真面目だといった話を聞きました。同期生2名に講演していただき、木下康司君(財務省大臣官房総合政策課長)の講演は『日本経済の現状と課題』・森達也君(映画監督)は『未遂に終わった夏休みの初体験(世界はもっと豊かで人はもっと優しい)』で約30名の参加が

ありました。講演会会場の視聴覚教室(一年生全員が入れる階段教室のような施設)をはじめとして新校舎はとて立派な施設で今の県高生は恵まれているなど感じました。

同期会は新潟東映ホテルで18時30分から受付、19時から22時まで宴会といった内容で松浪清先生・曾我浩先生・上杉雅之先生・永井成一先生の4先生と約120人の同期生が

集まりなかなか盛況でありました。開催日の平成17年8月12日(金)が平日といったこともあり参加者が少ないのではないかと心配しましたが杞憂に終わり一安心でしたが、5年後の同期会開催予定日(今からもう決めています)の平成23年8月12日は土曜日でありもっと多くの参加者が見込めるのではないかと期待しています。



上杉 雅之先生



曾我 浩先生

「丈夫」は色あせない

85回同期会報告

世話人:葦名淑子

9月23日金曜日、高校85回卒業生の同期会を赤坂・日本海庄やにて行いました。和やかに楽しく、懐かしい思い出話で大いに盛り上がりました。

卒業からおよそ30年。ふとしたきっかけであの頃の懐かしい顔ぶれに会ってみたいと思ひ立ち、発起人数名が集まって今回の会の企画をいたしました。当初はご案内葉書の返信が芳しくなく、それどころか宛先不明が四分の一以上もあり、ちゃんと開催できるのかと心配しましたが、最終的に20名の出席を得られ、発起人一同大いにほっといたしました。

30年の時の流れは、青陵祭に燃えた少年を恰幅のいい紳士に、可愛い少女を落ち着いた妙齢のご婦人に変貌させてはいましたが、やはり笑顔は昔のまま。懐かしい先生方や同級生たち、また青陵祭や部活の話題に花が咲き、楽しい時間をすごすことができました。

会の締めは何と言っても「丈夫」!かつての応援団長の指揮のもと、手拍子も高らかに全員で歌いました。歌詞カードを用意したのですが、そんなものは不要。「丈夫」は色褪せることなく、多くのひとの記憶に残っているものでした。

今回の企画に残念ながら出席できなかった方も交え、で

ければ来年新年会を催したいと思っております。より多くの方にご案内を差し上げたいと思いますので、これをご覧になった85回生の皆様、同窓会事務局宛にご連絡先をいただければ幸いです。

皆で一緒に「丈夫」を歌い、美味しいお酒を酌み交わしましょう!



寄稿 盧溝橋に立つ

中山 慎彦 (64回)

1937年7月7日に、北平(北京)西南の盧溝橋で日中戦争が勃発した。当地周辺で、何かのまちがいから起きた機関銃の空砲射撃が日中全面戦争の発端であった。その55日後に、私は誕生した。1945年8月15日に第二次世界大戦として終結したが、今年で68年目を迎えたことになる。北京の旅行案内記を読むと、盧溝橋はマルコ・ポーロが絶賛した名橋であった。

今年6月8日に、懸案であった万里長城の登城後に訪問の機会を得た。案内人の梁(りょう)さんによると、日本人の訪問は極めて少ないとのことであった。北京飯店から車で30分程で到着したが、後の新聞報道で知った「抗日戦争記念館」の改築工事で周囲は雑然としていた。その数が11と聞いたアーチ型の美事な石造りの橋であっ

た。橋を渡り始めたら、西側100mほどの方向に鉄道があり、北京方向へ列車が進行中であった。

橋の両側にある欄干は、1頭ずつ異なる石造りの龍が鎮座していた。橋の長さは相当で、往復に20~30分を要したように記憶している。清朝の康熙帝直筆の「盧溝曉月」の石碑は、68年前の日本軍兵士の「万才」の写真そのままであった。

当地が第二次世界大戦の発端の場所とは想像もできない静けさであった。欄干にもたれて、既に水がなくなっていた永定河(えいていが)を見おろしながら平和に感謝した。その時ふっと新潟市の万代橋と信濃川を思い出した。

1945年以降3度泣いた」と記憶している万代橋の歴史的重みは、盧溝橋とは比較にならないが、その美しさに

は格別の思いが残っている。万代橋を渡って参加した久方ぶりの中学校の同窓会で、「姑娘(クーンヤン)は良かった」と、社会科の先生であった人が声高に話していたのを側聞したが、戦争とは、やはりあってはならないことであった。



盧溝橋際に新設された「中国人民抗日戦争記念館」、沖縄の「摩文仁の丘」、広島「原爆ドーム」と機会があったら再訪を試み、21世紀が20世紀に学ぶ「戦争遺産の施設」の意義を考察しようと誓をたてた。



出版報告 直木三十五伝

植村 頼音 (64回)

6月末、文藝春秋社から直木三十五の伝記「直木三十五伝」(定価1800円)を上梓した。直木賞という文芸賞の冠としては知ってはいても、直木三十五という作家を知らない人は多いのではなかろうか。

小心にして傲岸、寡黙にして雄弁。稀代の浪費家、稀代の借金王、稀代のプランメイカー。わずか十年間に、代表作「南国太平記」をはじめ700編におよぶ小説、雑文を書き残



出版記念パーティ・9/2・東京會館にて

し、足早に昭和初期を駆け抜けた伝説の作家。死後、長谷川伸は、「昭和畸人伝を編む人があれば、まず第一に上げなければならない稀有の人物」といった。過去に、村松梢風、小島政二郎、川口松太郎らによる小伝はあるが、本書では、豊富なエ

ピソードのほぼ全てを収載、「評伝決定版」を目指した。

著者である私は、直木三十五の甥にあたる。伝記執筆を思い立ったのは学生時代、今から45年も前のことであるが、一昨年43年間のサラリーマン人生に終止符を打ったことで実現した。物事の成就には強く長い意志の継続が必要なのだつくづく思う。

素人のデビュー作なので文学的価値の高かろうわけではないが、素材は一級品である。意外に評判もいい。太く短く自分をとおした直木の生き方は、ひょっとすると若い人たちには新鮮かもしれない。一読していただければ幸いです。

サッカー一部OB戦参加体験記

佐藤 茂 (77回)

サッカー部は、私が在籍した当時以前から、毎年合宿の最終日に現役の1年生とOBがゲームをする伝統がある。それが「先輩」「後輩」の絆作りに役立ってきた。OBと言っても、高校を卒業したばかりの学生から、50代まで様々な年齢層が参加する。

そのOB戦に参加するために、8月6日(土)午後1時、懐かしき母校グラウンドに立った。数年ぶりに立ったグラウンドは広く、何よりも暑かった。(この夏一番の暑さとのこと。)当初立つだけで充分と思っていたが、現役が当日は疲労のピークということで、急遽不参加。人数が不足だと言うので、OB

同士の戦いとなり、私も酷暑のグラウンドに登場した。

プレーが始まると次第に感を取り戻して走り出した。しかしイメージと体の動きは別で、高いボールを追って行くうちにバックステップができず、見事にひっくり返ってしまったり、飛んできたボールをカットしようと伸ばした足の先を無情にもボールは通過していったり、珍プレーも数々あった。それでもパス回しに参加したり、昔のプレーをイメージしながら、2時間ほどグラウンドで楽しくプレーをすることができた。

夕刻、久しぶりに真っ赤に日焼けをした



体を冷ます間もなく、駅前の「しのだ」に移動し、恒例の懇親会に参加。冷たく冷えたビールが旨いこと旨いこと。思わず日頃の控えめな酒量もこの日ばかりは、かなりオーバーしてしまった。

我が同期の77回生は5名が出席し、サッカー談義、懐かしの青春時代、諸先輩・後輩との懇談に、時の経つのも忘れるほどであった。

数日後、身体全体が筋肉痛におそわれ、張り切りすぎた反省と共に、普段の運動がいかに大切かを切実に感じさせられた。そして、来年もやはりボールを蹴りに母校のグラウンドに立つような気がしている。

チャンプの留守宅に届いたバラの花束

第2回玲瓏会コンペ 5月13日・武蔵丘ゴルフコース

実は一玲瓏会の優勝カップ(栗林会長寄贈)は2個ある。

第1回優勝者に贈られたカップは、小振り、持ち帰るにも大した荷物にならないものだった。優勝者の竹尾昇(61回)も、「持ち廻りには手頃でいいね」と好評だった。

ところがこのカップに栗林会長からクレームがついた。「優勝杯なんだから、もう少し豪華なものが良かったね」。要するに「少しセコ過ぎやしないか」ということを、やんわりといわれたのだ。

このカップ、幹事一同が揃ってゴルフシ

ョップを訪れ、衆議一決したものだが、幹事が「欲しがりません。勝つまでは」の小国民育ち。いくら代金は会長に負んぶに抱っこでも、「チープ・イズ・ベスト」の習い性が仇になった。で、第2回大会の優勝杯は、初代よりも予算は3倍の大盤振舞。手にした重みも違う。

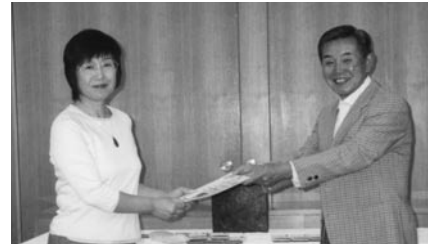
新調の2代目は第2回大会優勝者の斉藤健弥(68回)に渡されたが、持ち回りで次回(9月29日・平塚富士見C.C)までの一時預かり。が、副賞がゴルフウイドウの奥様へ、後輩の経営するフローリスト(福島

県須賀市・0248-72-7834)からバラの花束が留守宅に届く粋な趣向。

コンペの結果は、準優勝が飯利武志(68回)、3位・諸岡駿太郎(61回)、4位・渡辺千艦(68回)、5位・風間博(61回)。

第3回大会からは幹事は優勝者の同期が担当、運営することに決まった。

追記：第3回優勝者は丹羽真彦(66回)。



100年目の和解

青山艇友会会長 佐藤 勝弘 (65回)

新潟高等学校と新潟商業学校が7月16日付け朝日新聞全国版(第2社会面)で「100年ぶりの和解」等のタイトルで両校同窓会が握手したとの記事を、多くの在京青山同窓会の諸兄らをご覧になったことだろうと思いますが、と同時に、何のことだろうかと思われ、事由もわからなかった方々も少なくはなかったことだろうと思います。もちろん65期(昭和32年卒)の私も詳しく知る由もなく、今夏6月下旬、突然、朝日新聞新潟支局と新潟日報社会部の記者らによる相次いで電話取材は正直のところ困

惑致しました。幸いにも、平成4年に部史「漕艇100年」が青山艇友会によって編集発行されていまして、若干の知識はあったのですが。

部史「漕艇100年」によると、当時、若者の運動スポーツといえば、武道、陸上、野球と共に漕艇すなわちボート競技が盛んに行われていましたが、新潟中学校、新潟商業学校、新潟師範学校(現・新潟大学)による「三校端艇競漕会」(ボートレース)は市民をも巻き込んだ恒例の人気行事として多くの応援団が見守る葦茂の信濃川で行われていました。

しかし、第2回三校端艇競漕会(明治38年10月5日)で新潟中学と新潟商業が優勝判定を巡って乱闘となり、両校の多くの生徒が傷害に巻き込まれ停学処分、校長職員の引責辞任、優勝旗の三分割等で終息しました。爾来、三校端艇競漕会は廃止、新潟

商業学校はボート部は廃部となり今日に至ってしまいました。

今回の和解企画のきっかけは、新潟商業同窓会実行委員が同校の創立百周年記念誌で乱闘事件を知り青山同窓会に話をもちかけたことで具体化し、葦原同窓会の招待を受け、青山同窓会は私たち青山艇友会(会長佐藤勝弘：65期、副会長渡辺研二：75期)に参加を託した次第です。

他校の同窓会に参加することはもちろんのこと、事が事でしたので、最初は本当に緊張しましたが、葦原同窓会の石堂平也会長や出席者最高齢の横山嘉一さん(92才)ら総会に集まった約300人の新潟商OBの方々による暖かい交流の中で無事に固い握手を交わすことができました。

『100年前、熱き血に燃える当時の若人が互いに母校を思い引き起こした事件だったと思うが、いわゆる「スポーツの影(障害)」であったこの事件を、21世紀を支える両校の若者たちのために「スポーツの光(効果)」に置き換え、交流と親睦が深まるように互いに協力しましょう』と挨拶いたしました。

ちなみに、当夜の様子は翌日の新聞記事と共にテレビ新潟放送網(Teny)で放映され紹介されました。



山岳部現役・OB交流会に参加して

鈴木 雄太 (110回)

去る2005年9月10日(土)、11日(日)、新潟県の巻機山で行なわれた山岳部の交流会に参加してきました。交流会は毎年同じ時期に、同じ場所で行なわれます。首都圏在住の先輩方、京都から高速バスで東京まで来た同期、私も含め計5人でレンタカーに乗り込み、関越道経由で一路六日町を目指しました。私がOBとして参加するのは、大学1年の時に参加して以来3年ぶりになります。この交流会は、高校3年生の引退登山(追い出し)も兼ねていて、六日町に近づいてくると、私が追い出された時の記憶が徐々に思い出されて懐かしい気持ちになりました。現役時代何度も登った巻機山、暑い時、寒い時、先生方や仲間と語り合った山小屋の風景が鮮明に蘇り、山へ向かう足も自然と速くなりました。もちろん法定

速度の範囲内で。

山小屋に着くと、私も現役時代お世話になった「新潟高校」と書かれたテントが張ってあり、何故か嬉しくなりました。お世話になった顧問の先生方、後輩の現役部員たちにあいさつをして、山に囲まれながらしばしゆったりとした時間を過ごしました。夕食の時間になり、交流会が始まりました。私が現役部員の時や、3年前に交流会に参加した時は比較的年配のOBがたくさん来られていたように記憶していますが、今年は偶然、108回～112回くらいまでのOBが多く、高校時代一緒に山に登った世代なので、話はずみしました。OB、現役と一人ひとり自己紹介もしました。現役部員の真面目な姿勢に安心しました。私が部長を務めていた頃と比べて部員数は倍増していますが、今年は1年生がまだ入っていないということで、現部長を中心にがんばって勧誘してほしいと思います。50年を超える山岳部の伝統を絶やさないよう

にしてほしいです。

翌日、我々レンタカー組のOBは湯沢の温泉に寄って、帰京しました。私は来年から社会人になりますが、都合のつく限り、また巻機山に帰ってきたいと思います。



東京青山同窓会 平成17年 総会のご案内

日時

平成17年11月22日(火)
受付開始：午後6：00
開会：午後6：30

会費

一般：8000円
女性：6000円
大学生：3000円

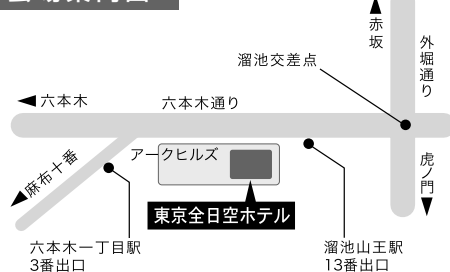
会場

東京全日空ホテル

プログラム

- ◇総会議事◇
- 会務報告・会計報告など
- ◇懇親会◇
- 着席buffe

会場案内図



東京全日空ホテル：港区赤坂1-12-33 03-3505-1111(代)

**卒回別
出席数コンテスト有り!**
お誘い合わせの上
ご参集下さい!!

最寄り駅

銀座線・南北線【溜池山王駅・13番出口】
南北線【六本木一丁目駅 3番出口】

路線バス

都01系統/新橋駅～渋谷駅
【赤坂アークヒルズ前】下車

【卒回別出席数コンテスト】

出席人数の多い卒回、ベスト3を表彰いたします。(豪華景品授与)その他、飛び賞もご用意いたしますので、同期でお誘い合わせの上ご参加下さいませ。

偶数月第二火曜日の会

平成17年～18年の予定
12/13(兼忘年会)・2/14・4/11
6/13・10/10

毎回定時19時より
日本海庄や(赤坂店)
港区赤坂 3-13-7
Tel:03-3586-5003

場所も時間も固定です。
ふらりとお立ち寄り下さい。

住所リスト出力サービス

当同窓会では、皆さんからの情報を元に常に会員の住所録をコンピューターにて更新しております。

「同期会をやってみたいけれど、皆の住所がわからない…。アイツは今どうしているんだろう?」などとお思の方は事務局までお尋ね下さい。

TEL. 03-3423-3591
FAX. 03-3423-1692 (日下部・82回)

お知らせとお願い

GEカードによる年会費の自動引き落としシステムは終了しています。17年度からは、郵便局が銀行にてお振り込み下さいますようお願い致します。

■ 計 報 ■

今期後半事務局にお知らせいただいた方々です。

梅田 梯 次	(43回・H16/9/17)
前山 金 一郎	(44回・H17/4/6)
藤 井 明	(51回・H10/4/7)
勝 見 叶	(55回・H15/10)
中 村 忠 彦	(62回・H16/8)
島 健 介	(76回・H17/1)
高 橋 愛 恵	(111回・H16)

心よりご冥福をお祈り申し上げます。

東京青山同窓会会報

一筆啓上

～H17年6月の新人歓迎会への出欠はがきと会費振込用紙に添えられた主なメッセージです。～

通信8回・西山力子
いつもありがとうございます。何もせず申し訳ありません。退会させていただきます。長い間ありがとうございました。

36回・栗山甚之助
御送金(会費)申し上げることが遅れました事を何卒御許容下さい。

36回・関昇
まずは健康です。同期36回、斉藤英四郎くんは数年前になくなり、クラス会も開けなくなった。金がないからだ。小生は卒業時No.1。無理はしない。93才です。

40回・高田信川
妻入院中(10ヶ月)になり、病院が近くなので毎日行っております。

41回・伊藤一雄
来年90才になるが元気にやります。楽しみは庭の野菜づくりや、盆栽と囲碁などです。

43回・里見義忠
転倒ケガで当分の間JR旅行が出来なくなりました。

44回・前山金一郎
先日、4月6日に永眠いたしました。長年のご厚誼ありがとうございました。母が父の看病中、先立っておりますので、お墓でも寂しくはないと思っております。会のご盛会お祈り申し上げます。(大角敏子・長女)

49回・白川保
お陰で、日々元気で過ごしております。

50回・上村光司
ご案内を頂きましたが、新潟に居なければならぬ用がありますので、欠席します。

51回・藤井明
夫・明は平成10年4月7日に他界いたしました。生前の皆様のご交誼に厚く御礼申し上げます。(妻)

52回・大塚幹雄
毎回ご連絡をいただきますが、出席できる状態でもなくなりまして、退会させていただきたく、今後ご連絡はご無用にして下さい。勝手ながらお願いまで。

52回・渡辺達郎
人生朝露の如し 年々歳々花相似たり 歳々々々人同じからず

52回・渡辺千春
会報・資料などお送りいただきありがとうございます。

55回・新井勝隆
小生高齢のため、東京とは縁が遠くなってしまいました。よって平成16年度をもって退会いたしたく、ご連絡申し上げます。

55回・勝見叶(代筆)
平成15年10月に病没いたしました。お世話になりましたありがとうございます。(勝見弥生)

55回・志賀朝夫
会費を納入しておりません。会報はご遠慮いたし度。

56回・飯島昌彌
昨秋久しぶりに新潟を訪ね、母校にも行って来ました。海苔へ出たり、学校町通りを歩き懐旧の念一入でした。

56回・中山昭一
平成17年11月1日、横浜市へ転居予定。

58回・佐藤格
毎度の欠席申し訳ありません。古稀を過ぎて3年、年齢相応な健康状態です。同窓生各位の栄華と会の盛況を御祈り申し上げます。

58回・宗村泰四郎
残念ながら都合が足らぬので行きますが、益々のご発展をお祈りいたします。

58回・毛利剛
運動の為に、自宅から九十九里の海岸まで自転車で行っています。

59回・園城英二
FAXを設置いたしました。番号は電話と同じです。

59回・花井進
お陰様で元気に過ごしています。当日を楽しみにしています。

59回・藤原幸雄
両足裏にシビレがあり、足首に負担がかかり、3~4K程の歩行が限界です。勤務中もロードワークを続けており、高校時代からの継続が筋肉疲労との診断で、何事も7分目であることに気がきました。

59回・山崎徳左衛門
今後のご連絡通信はご遠慮申し上げます。長い間ありがとうございました。

59回・吉田陽吾
当日は法要で実家へ帰りますが、その実家が新津市から新潟市に変わり喜んでいきます。

60回・石黒忠士
元気ですが、所用のため出席できません。ご盛会を祈ります。

60回・市村哲
残念ながら出席しません。皆様によろしく。

60回・小出直
家内の看護のため家を長時間留守に出来ませんので欠席をお許し下さい。

60回・高城英雄
検査入院の為出席出来ません。すみません。

60回・長橋光
2年前、新潟へ転居しました。新潟青山同窓会に入会して

いますので、東京会は退会扱いにお願いします。

60回・小林亨
東京青山同窓会を退会扱い願います。新潟の同窓会副会長も辞しておりますので、会報送付も辞退いたします。お世話になりました。

61回・安宅久憲
当日は旅行に出るため、欠席いたします。

61回・阿部亜生
元気で。

61回・長谷川耕一
当日は新潟で中学校(関屋中学)の同期会があるため東京での会合には残念ながら出席出来ません。

61回・長谷川雄峰
70歳。老人医療は2割になった。バス賃5割引。映画館は1000円也。年金は年々減り、毎日半額のバスで通って働きに出ています。休日は1ヶ月3~4日。その日は家庭菜園で農夫をやります。病気をしたとしても通院するヒマはありません。そろそろ病気が向こうからやってくるそうです。

62回・佐藤勝彦
日常生活に特段の変更はありません。元気に日々を過ごしております。ご盛会の各位によろしくお伝え下さい。

62回・鈴木勉
幹事の皆様にはご苦勞様です。来年には満70才を迎えるわけですが、この国の未来、高老化社会、増税と、明るい環境には程遠い様子。私事ですが一生現役でガンバります。

62回・中村忠彦(妻代筆)
夫・中村忠彦は昨年8月永眠いたしました。生前中はお世話になりました。ご盛会の各位によろしくお伝え下さい。

62回・帆刈宏典
7月で古稀を迎えます。現在金城大学短期大学部でビジネス実務学科客員講師を継続いたしております。

64回・坂井敬
64期は5月16日東京厚生年金会館で同期会を開催。51名が出席、盛況でした。

64回・品田亘
毎回ご案内をいただき恐縮ですが、上京の機会も少なく、あまりにも遠いため東京同窓会を退会いたしたく存じます。悪しからず。貴会の益々のご繁栄と今回歓迎会の盛会を祈念します。

64回・清水良男
今年も丁度新潟に帰っており欠席させていただきます。ご盛会をお祈り致します。

64回・津野慶浩
いつも盛会でお喜び申し上げます。今回も申し訳ありませんが欠席させていただきます。

64回・中谷光隆
勤め先の定期健診により、心臓に気をつけるよう言われ、ごぶさたしております。同期の諸兄及び先輩の皆様のご健康をお祈り致します。

64回・藤森曙啓
同窓会の行事、活動に参加できる状態ではありません。関連資料は不要ですので、送付を止めて下さるようお願いいたします。

64回・三國六郎
長き時代生きてわれ等は先に逝く 地獄の時代の君等残して。“サバイバルの術を会得せよ”。趣味の短歌、難関の「文芸埼玉」第72号に入選しました。これで2回目です。

65回・小沢征夫
都合により(病氣のため)今年度をもって退会します。

65回・半澤貢
半澤栄子(66回)の会費も一緒に送りました。

65回・横山修二
いつもご案内ありがとうございます。今年こそは…と思いつつ、又々Wブッキングとなって欠席させていただき失礼をお許し下さい。幹事の皆さんのご苦勞は良く解りますので例え今回は欠席しても、母校への感謝の念はこれからも、ずっと思い抱きながら、必ず出席させて頂くよう努力いたします。

66回・合田春美
会費、2年分を振り込みました。

67回・石田瑞穂
今回講師の松井さん(同期です)にお会いできずに残念です。よろしくお伝え下さい。行きたかったのですが当日新潟にて所用のため残念ながら欠席します。

67回・佐々木邦夫
同期の松井さんの講演ですが出席できません。ご盛会を祈ります。

68回・増子藤男
パーキンソン病で足が不自由な為欠席します。皆様に宜しくお伝え下さい。

68回・吉岡利昭
相変わらず走っています。明9/29は、「山中湖ハーフマラソン」を楽しんでいます。

70回・猪口孝
4月から中央大学法学部で教えています。研究室は後楽園がキャンパスです。

70回・花輪治
幹事の皆様ご苦勞様です。年金生活2年目となります。高校時代に覚えたテニスを楽しんでいます。今回は旅行の予定と重なりますので欠席させていただきます。

71回・太田裕
弊社株主総会直前につき、準備等の為欠席させていただきます。

71回・齋藤誠
6月末出光興産を退社し、第2の人生に入りますが、健康

第一に有意義な生活を過ごせるように心がけていきたい。

71回・柄沢卓
一月の熟年式で「高校三年生」と「青春時代」を歌いました。

72回・斉藤俊正
諸用の為欠席と致します。総会の盛会を祈ります。

72回・小林正昭
この4月60才を迎え、一線を退きました。今後のことは思案中(?)です。ご盛会をお祈りしております。

73回・阿部裕
ご苦勞様です。次回には出席したいと思っております。

74回・加門文隆
スリランカ北部、タミルイーラム開放の虎(LTTE)支配地域近くで病院の設計をしています。停戦中の反政府ゲリラ組織ですが病院の拡充は政府・反政府双方にとって必要な為、同国内の注目をあびています。

74回・高橋信郎
大阪の会社に向向しておりますので、連絡先の変更をお願いいたします。

75回・大野敏雄
2005年3月31日付で日本フル工業を退職しました。職業としてはアパート経営となります(自営)。

75回・曾我正男
56才ではありますが、若干体調を崩しています。皆様と再会できる日を楽しみにしています。

75回・西山健
勤務先変更、昨年12月よりようやく半年たちました。

75回・山崎信行
いつもお世話になっております。昨年前立腺ガンの手術をいたしました。元気に働いております。定年後はどうなることやら、ちょっと気になります。

76回・長北学
今回は残念ながら機種移行訓練中のため欠席させていただきます。

76回・武藤保夫
H17年2月、転居いたしました。

82回・小亦斉
残念ですが欠席いたします。

82回・西山活子
勤務地が町田になり、異動したばかりのため、今回も欠席させていただきます。秋には出席したいと思っておりますが、申し訳ありません。

85回・戸枝秋夫
1月より新潟へ転勤となりました。東京青山同窓会脱会になるかと存じます。

85回・柳下和彦
残念ですが、仕事の都合上欠席させていただきます。

86回・鈴木祐喜子(旧姓三村)
長い間音信不通で申し訳ありません。もうすぐ結婚20年目。高1の長女と小4の長男の4人家族です。

88回・小竹聡
この4月より職場を変わり、東京に戻ってきました。12年6ヶ月地方におりましたので、なかなかペースが元に戻りません。とは言え、都会生活を満喫しています。久しぶりに同窓会に出席させていただきます。

88回・山科満
住所が変更になりました。

89回・岩野尚子
当日は所用があり出席することができません。ご盛会をお祈りしております。

90回・岩永伸一
欠席いたします。遅くなって申し訳ございません。

90回・田辺文
昨年一年間、病気で入院しておりました長男も全快し、一年遅れて高校生活を楽しんでおります。家族の絆や健康というものは本当に大切ですね。盛会です。お祈り申し上げます。

101回・滝口恭子(旧姓佐藤)
大変ご無沙汰致しております。私の高校卒業と同時に父も仕事で転勤、実家ごと東京へ。私も中央大学へ進学、早13年です。昨年の冬に結婚致しました。ご盛会お祈り申し上げます。

102回・池田哲郎
金融内部監査士、ビジネス実務法務2級、合格しました。

104回・石澤紀子
残念ながら欠席させていただきます。

110回・小林瑠璃子(旧姓村山)
村山瑠璃子から小林になりました。

111回・若槻直人
今春より住所が変わりましたのでご連絡申し上げます。大学も最終学年となり(3年制のため)、多忙な日々を過ごしています。

112回・吉田丈夫
コンビニの弁当前に自炊せし 上京したての生活恋し

113回・相澤渉太
現在、東京大学理学2類に通っています。

113回・嶋村理子
所用のため参加できません。次回は参加したいと思っております。ご盛会をお祈り申し上げます。

113回・高野祐一
勉強を頑張っています。一人暮らしは楽しいです。

113回・高橋良太
都合により、当日出席出来ません。参加の皆様には宜しくお伝えください。

以上